月刊『日本の学童ほいく』を読み広め、保護者と指導員が力をあわせて学童保育の改善に取り組みましょう

全国学童保育連絡協議会 会長　**西田隆良**

読者の皆さん、あけましておめでとうございます。新しい年が、読者の皆さんと学童保育にとってよい年になるよう、力をあわせて取り組みましょう。

2020年は「新型コロナウイルス感染症」の拡大にともない、3月から学校が「臨時休業」となり、学童保育では1日保育がはじまりました。

学童保育の現場では、感染防止のためにマスクや消毒液を確保し、「密集」や「密閉」にならないよう遊び場の確保などを行いつつ、3か月間も1日保育がつづいた地域もあります。感染防止のため、保護者が集うことや指導員の研修の実施が困難な状況のなかで、全国各地の学童保育関係者は、おたよりやEメールなどを活用して連絡を取りあったり、インターネットを通じて交流や研修の機会を設けるなど、工夫をしながら、これまでに経験したことのない日々を過ごしてきました。1日保育がつづくなかで、学校の校庭や近隣の公園の利用に際して理解と協力を得る、マスクや消毒液、おやつや昼食の提供をいただくなど、多くの学童保育が地域の方々の理解と協力に支えられました。また、各地の学童保育連絡協議会は、行政に窮状を訴え、さまざまな支援を要望するなど、保護者・指導員が一体となって取り組んできました。

学校再開後、緊張感をともなった生活のなかで短い夏休みはあっという間に過ぎ去りました。そして11月の中旬からは再び、全国で1日の感染者数が急増する状況になるなど、「新型コロナウイルス感染症」に翻弄される1年でした。

今般の「コロナ禍」により、学童保育の現場では制度上の脆弱性がいっそう顕在化し、指導員不足や施設・環境の不十分さなど、解決すべき課題がより明確になりました。

それと同時に、「学童保育を充実したものにしたい」という保護者や指導員の願い、子どもたちが「普段どおり」の日常を積み重ねることの大切さ、そして地域や学校などの関係機関に学童保育の理解を広めていくことの大切さをあらためて感じているところです。

2021年がよい年になりますよう、皆さん、共にがんばりましょう。